

農作業コツのコツ

【第13号】

令和7年7月12日
福光農業改良協議会
砺波農林振興センター南砺班
福光農業協同組合 営農部

水管理

干しすぎに注意し、

幼穂形成期以降は飽水管理、

出穂期からは湛水管理を徹底しましょう。

農作業中はこまめな休息と水分補給に努め、熱中症を予防しましょう。

6月中旬から気温が平年よりかなり高く推移し、今後も暫く高温が続くと予想されています。生育は早く、葉色も淡めに推移しています。出穂前7日頃の葉色が淡い場合は、追加穂肥を行い適切な穂揃期葉色へ誘導しましょう。また、早生品種は出穂後20日間の湛水管理を、コシヒカリやてんこもりは出穂期まで水を切らさないようにし、飽水管理を徹底しましょう。

水稻の生育状況

(移植7月8日、直播7月8日：福光農業改良協議会 良質米実証田生育調査結果)

品種名	田植日		草丈(cm)		株当たり茎数(本)		葉齢(葉)		葉色		幼穂形成期		
	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	
コシヒカリ	5/14	5/14	71.2	69.8	21.4	22.3	12.0	11.9	4.1	4.1	(7/10)	7/10	
てんこもり	5/11	5/9	66.8	61.3	36.0	32.5	13.4	12.8	4.1	4.2	(7/10)	7/13	
密苗	コシヒカリ	5/19	5/16	61.6	66.4	23.8	25.7	11.8	11.9	4.0	4.2	(7/13)	7/13
	てんこもり	5/6	5/8	61.7	59.5	31.2	31.3	13.0	12.7	4.1	4.2	(7/12)	7/14
直播	カルパーコシ	4/26	4/30	69.3	66.3	132	162	10.8	11.3	3.9	4.0	(7/12)	7/13
	鉄コ コシ	5/5	5/2	65.6	64.0	170	177	11.5	11.2	4.4	4.3	(7/16)	7/18
	鉄コ てんこ	4/29	4/30	57.4	55.7	181	209	11.9	12.1	4.3	4.3	(7/21)	7/20

※直播の田植日は播種日、株当たり茎数はm当たり茎数

※コシヒカリ(慣行苗のみ)2筆、直播(加パ-)1筆、他2筆

水稻

1 水管理

- ◆湛水は降雨に頼らずしっかりと入水しましょう！
- ◆用水の水は、下流域にも水が流れるようにし、かけ流しは行わず、強制落水を控えるなど、有効に活用しましょう。

(1) とみちから、五百万石、てんたかく 81

出穂後20日間(7月18日出穂は8月7日頃まで)は、田面が露出しないように2~3cmの湛水状態を保ち、収穫期まで根の活力を維持しましょう。

(2) コシヒカリ、てんこもり、直播 ~干し過ぎに注意~

- ・穂揃期の葉色の確保に向けて、足跡や溝に水が残る状態になったら入水して土壌の湿潤状態を保つ飽水管理を徹底しましょう。
- ・てんこもりは、干しすぎによる葉色の低下に注意しましょう。
- ・コシヒカリで葉色が濃い、または、ほ場が軟らかい場合は間断かん水を継続しましょう。(移植7月17日頃、直播(カルパー)7月19日頃、直播(鉄コ)7月23日頃まで)

2 穂肥施用(肥効調節型基肥体系)

出穂7日前に葉色を確認し、葉色が目安より淡い場合は出穂3日前までに追肥を行い、登熟や品質の向上を図りましょう。今年は高温が予想されているので積極的な追肥を！！

○出穂期予想と追肥施用の目安

品種	田植日 播種日	幼穂形成期 ()は予想	出穂期予想	追肥が必要な葉色 目安(出穂7日前)	10a 当り施用量 BB 穂肥35号
五百万石	5月5日	6月26日	7月17日	4.2以下	10kg
とみちから	5月3日	6月26日	7月18日	4.5以下	
てんたかく 81(慣行苗)	5月4日	6月26日	7月16日	4.0未満	
てんたかく 81(密苗)	5月4日	6月23日	7月14日		
コシヒカリ(慣行苗)	5月14日	(7月10日)	7月31日	4.0以下	7kg
コシヒカリ(密苗)	5月19日	(7月13日)	8月2日		
てんこもり(慣行苗)	5月11日	(7月10日)	8月1日	4.2以下	11kg
てんこもり(密苗)	5月6日	(7月12日)	8月3日		
加パ-コーティング コシ	4月26日	(7月12日)	8月3日	4.0以下	7kg
鉄コーティング コシ	5月5日	(7月16日)	8月6日		
鉄コーティング てんこ	4月29日	(7月21日)	8月12日	4.2以下	11kg

※てんこもりで現在の葉色が4.0を下回る場合は、直ちにBB穂肥35号を10a当たり11kg程度施用しましょう。

カメムシ類を抑えるため、雑草の穂が出ないように基本防除までこまめに草刈りを行いましょ。

3 病害虫防除

(1) 基本防除 2回の基本防除を徹底し、カメムシ類による斑点米の発生を防ぎましょ。

品種	防除時期の目安			薬剤、散布漏	
				液剤【無人航空機】	粉剤
五百万石 とみちから てんたかく 81	1回目	穂が全体の90%出た頃	7月17日 ~22日	ビームエイトスタークルゾル 8倍、0.8ℓ/10a	ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a
	2回目	1回目の1週間後	7月24日 ~29日	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップ粉剤 DL 4kg/10a
コシヒカリ てんこもり カルパーコシ 鉄コ コシ	1回目	コシ：穂が全体の40~50%出た頃 てんこもり・直播：出穂直前	7月31日 ~8月4日	ビームエイトスタークルゾル 8倍、0.8ℓ/10a	ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a
	2回目	1回目の1週間後	8月8日 ~11日	キラップフロアブル 8倍、0.8ℓ/10a	キラップ粉剤 DL 4kg/10a

(注) ①必ず出穂状況を確認して防除を行いましょ。

②1回目防除と2回目防除の間隔は7日間とし、10日以上空けないようにしましょ。

③今年もカメムシが多く、斑点米多発のリスクは高くなっています。早生3回目の防除が必要な場合は、地区担当営農指導員からお知らせしましょ。

(2) 随時防除

①葉いもち 病斑が見られたら直ちに防除を行いましょ（特に葉色が濃いほ場は注意）。

②紋枯病 前年に多発したほ場や茎数が過剰なほ場では発生が懸念されましょ。穂ばらみ期（コシヒカリ出穂10日前頃、てんこもり出穂7日前頃）に病斑が見られたら防除しましょ。

③稲こうじ病 常発地では、出穂10日前までに薬剤を散布しましょ。

※詳しくは、「営農とくらし」P56~57を参照してください。

大豆

1 培土 培土は晴れ間を見て、開花期までに確実に2回行いましょ。

2 雑草防除 雑草や大豆の状況に応じて、遅れずに除草剤を使用しましょ。

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用回数	10a 当たり散布量
イネ科雑草	ポルトフロアブル	イネ科雑草 3~10 葉期 ただし、収穫 30 日前まで	2 回	薬液 200~300ml / 希釈水量 100ℓ
畑地 1 年雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆 2 葉期~開花期前 ただし、収穫 45 日前まで	1 回	薬液 100~150ml / 希釈水量 100ℓ
畑地 1 年生雑草 ※吊り下げノズル等 を使用し、大豆にかか らないようにする	ザクサ液剤	雑草生育期 (うね間処理)	3 回以内	薬液 300~500ml / 希釈水量 100~150ℓ
	バスタ液剤	ただし、収穫 28 日前まで		
	ダイロンゾル	雑草生育期 (大豆 5 葉期 以降：うね間処理) ただし、収穫 30 日前まで	1 回	薬液 100~200ml / 希釈水量 100ℓ

ザクサ液剤またはバスタ液剤との混用で抑草期間が長くなります

※詳しくは、「営農とくらし」P94~95を参照してください。

3 うね間かん水

開花期頃(7月20日頃)から9月上旬までの水不足は、落花や落莢を招き、青立ち(莢先熟)につながりましょ。開花期以降から、晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的にうね間かん水を行いましょ。

4 病害虫防除 確実に基本防除を実施し、紫斑病やカメムシ類の防除を徹底しましょ。

防除区分	防除時期の目安			薬剤、10a 当り散布量	
				液剤【無人航空機】	粉剤
ウコンノメイガ (随時防除)	7月下旬~8月初め 株当たり6個以上の葉巻きが発生したら直ちに			プレバソフフロアブル 5 16倍、0.8ℓ	ダントツH粉剤 DL 4kg
基本防除	1回目	莢が伸び きった頃	8月6日 ~15日頃	プランダム乳剤 25 24倍、 スミチオン乳剤 8倍、0.8ℓ	Zボルト粉剤 DL※ 3kg スミチオン粉剤 3DL 4kg
	2回目	莢に子実が つまった頃	8月20日 ~30日頃	アミスター20フロアブル 16倍、 キラップフロアブル 16倍、0.8ℓ	トライトレボン粉剤 DL 3kg

※出穂している水稻にかかると薬害が発生するので、飛散防止に努めましょ。